

指導資料



鹿児島県総合教育センター

生徒指導 第59号

－幼・小・中・高・特別支援学校対象－

平成22年10月発行

保護者の状況を大事にした連携の在り方

児童生徒への指導・援助において、保護者と教職員は、それぞれの役割を果たすよきパートナーとして、相互に連携していくことが不可欠である。しかし、保護者の状況を十分に理解できずに連携がうまくいかない場合もある。

本稿では、保護者の状況を大事にした連携の在り方について、学校に対して非協力的、批判的と思われる状況にある保護者を理解して、連携することの実際を中心に述べる。

1 保護者と連携を図る基本的な考え方

保護者との連携では、まず、信頼関係を築くことが大切である。そのためには、日ごろの教育活動を充実させ、児童生徒との信頼関係を築くことが第一に大切なことである。その上で、具体的には次のことなどを行い、問題が発生してからではなく日ごろから保護者と相互理解し、協力していく体制をつくる必要がある。

- ア 学校便りや保護者会等を通して学校の教育方針や現状を積極的に伝える。
- イ 日ごろから、個々の児童生徒にかかる学校からの様々な情報を確実に伝える。
- ウ 保護者の学校に対する要望等を様々な場で積極的に受け止める。
- エ 日ごろから、個々の児童生徒にかかる家庭からの情報を確実に収集する。
- オ 学校の役割と保護者の役割を確認の上、

- 協力しながら児童生徒の指導に当たる。
- カ 理解や協力に対する感謝の意を表す。
- キ 協力が得られにくい場合、民生委員・児童委員等の協力を得ながら、粘り強く協力関係を築いていく。

その際、次のような基本的な姿勢で保護者とかかわることが大切である。

- ア 子どものことを思う親心を理解する。
- イ 保護者の努力を認める。
- ウ 児童生徒の長所や得意な面を認める。
- エ 「保護者とともに」という姿勢をもつ。
- オ 迅速な対応を心掛ける。
- カ 人権尊重の精神を忘れない。
- キ 一人で抱え込まない。

特に、連携が難しい場合、次のようなことに留意して保護者に対応する必要がある。

- 勝手な判断でレッテルを貼らない
保護者の言動を性格ではなく状況としてとらえ、状況改善の手だてを工夫する。
- 常に児童生徒にかかる学校からの発信と支援を継続する
いかなる状況においても、児童生徒や保護者に「見放された」という思いを抱かせないよう手だてを工夫する。

2 保護者の状況の理解と連携上の留意点

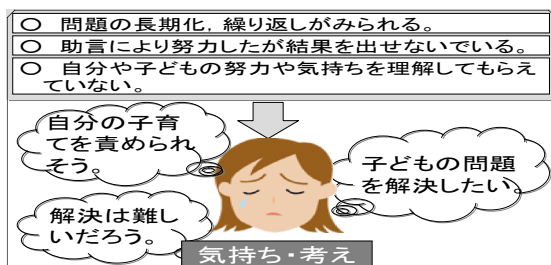
児童生徒へのよりよい指導・援助のためには、保護者から直接、思いを丁寧に聴くことなどを通して、保護者の状況を理解して連携することが大切である。

保護者の状況とそこから予想される気持ちや考えの参考例を次に示す。

(1) 学校に非協力的であると思われる状況

ア 子育てに自信を失いかけている状況

「困っている」保護者の気持ちを受け止め、一緒に協力していく姿勢を伝えることが大切である。



〔連携上の留意点〕

- 保護者の自己効力感を高める
子育てに関してできていることとその理由などを質問し、気付きを促す。
- 達成感をともに味わい意欲を高める
「明確で実現可能な」目標を教師とともに設定し数多く達成できるようにする。
- できるだけ具体的な助言を行う
取り組みやすいように、「寝る前に10分間読み聞かせをしましょう」などの行動レベルでの助言を行う。

イ 子育てに無関心と思われる状況

学校は勝手な思い込みを避け、保護者の「そうせざるを得ない」状況を受け止める。できる範囲の取組をともに進めることが必要である。



〔連携上の留意点〕

- まず、保護者の実状を認める
じっくり話を聴き、保護者の実状を受容する。「会える」、「支援を依頼できる」関係づくりから始める。
- 保護者の役割の意識化を図る
保護者としてやっていることを認める。子どもの成長の喜びを共有する。
- 願いを粘り強く伝え続ける
「子どもに目を向けてほしい」という教師の願いを伝え続ける。

- 緊急を含む組織的対応を行う（虐待の可能性）
食事や服装などの緊急対応、必要に応じて通告などを含む対応など、校内外のネットワークを生かしたチーム支援を行う。

(2) 学校に批判的であると思われる状況

様々な理由から学校に不信感をもっていると考えられるので、学校はその軽減や解消に努める必要がある。



〔連携上の留意点〕

- 保護者を尊重する態度を示す
接遇や話の聴き方などに配慮し、学校の一方的な対応とならないよう留意する。質問や確認により保護者の考えを引き出す。
- 保護者の誤解、偏見、先入観を軽減する
児童生徒への支援についての方針、経過、結果などを適時相談し、報告する。
- 児童生徒への思いを伝える
児童生徒の良い点を理解した上で指導していることを積極的に伝える。

保護者との連携においては、学校は相手の立場に立って、その心情を考えて対応することが大切である。

3 保護者の状況に応じた連携の実践

次に保護者との連携の具体例を述べる。

(1) 不登校への支援に非協力的な状況

ア 概要

Aは5年生の2学期から不登校となった。兄も中学校時はほとんど学校へ行っていない。Aが6年生になった1学期の始業式の日、担任が連絡して家庭訪問すると、母親は「無理に学校に行かせようと思っていない」、「家庭訪問も迷惑なので構わないでほしい」と言い、あきらめた様子だった。母親は特に学校を責めることはないが、その分自分を責めているようで「育て方が悪かった」、「家庭の責任だ」等の言葉を繰り返している。

イ 母親の気持ちの理解

○ 兄の時も不登校は改善されなかった。
○ 学校からの依頼に応える自信がない。
○ 子育ての責任を追及されることに疲れている。

Aを学校へ行かせることはできそうにない。 Aが登校できたら、うれしい。

気持ち・考え

ウ 連携のポイントと母親の気持ちの変化
子育てに自信を失いかけている母親の状況を理解し、次のように母親との連携を図りながら、Aへの指導・援助を進めた。

① 手紙や電話、訪問などを通して母親のこれまでの努力に対する肯定的な言葉かけをした。

自信を失いかけた母親の気持ちを支え、徐々に「何とかしたい」と思う気持ちを引き出すことが大切である。

T: Aさんに会うことができてうれしかったですよ。(家庭訪問時)

T: Aさんの元気そうな様子はお母さんがしっかり見守っているからですね。

先生は、私(母親)やAのことを責めないから安心して相談できる。(信頼感)

※ T:教師, P:保護者

② 母親が望んでいること(ゴール)を質問の形で明らかにした。

ゴールの設定は「小さなことを、具体的に肯定表現で」を原則とする。必要に応じて選択肢を示し、母親が自分の願いを答えやすいように工夫することが大切である。

T: どんなふうになればいいでしょうか。

母親として自分がすべきことが段々見えてきた。(不安の軽減)

③ 偶然にでも解決に近づいたAの行動(例外)が見られたときのことを質問した。

「できていること」への母親の気付きを促し、自信をもたせるとともに、今後のAへの働きかけのヒントとなるような助言をすることが大切である。

T: 3月に登校できた日がありましたね。どんな日だったんですか。

P: たまたま、朝、あの子と犬の散歩に行っただけです。

T: お母さんがAさんにエネルギーを注いであげたんですね。

また、Aのエネルギーが貯まるようなことをしてみよう。(意欲の向上)

④ Aへの支援の成果を整理するための質問をした。

Aの成長を支える母親の働きかけへの気付きを促し、よいかかわりとして自信をもたせることが大切である。

P: 最近、Aがゴミ出しを手伝うようになったんです。

T: どんなふうにAさんにかかわられたのですか。

T: Aさんは朝7時に起きているそうですが、お母さんはよくやってきましたね。どんなふうに行っているんですか。

私(母親)のかかわりがAの成長につながっていてうれしい。(喜び)

エ 連携の結果

教師は、母親の気持ちを共感的に理解し、小さな努力を見逃さず、認め・励まし・応援していった。

その結果、母親は、子育てへの自信や学校への信頼感を取り戻し、Aへの支援を学校と連携して行うことができるようになった。Aの表情は次第に明るくなってきた。

(2) 我が子の非を受け止めにくい状況

ア 概要

中学2年生のBは理科の実験中、教師の指導に従わず危険な行動が続いたため、担当のC教諭に叱責された。すると、Bは暴言をはき、理科室を出て行った。

連絡を受けた担任は、校内でBを見つけた。Bとの関係は割合よかったので相談室で事情を聞くと、「実験が面白くないからふざけただけ」、「いきなり怒鳴ったCの方が悪い」とふてくされた態度で言い、「Cが先に謝るなら謝ってやってもよい」と言った。

担任は、これまでも電話と手紙で父親へBへの指導を依頼してきたが、この日の放課後、父親に来校を依頼した。

イ 父親の気持ちの理解

○ これまでの経緯から、指導を受け入れにくい。
○ 我が子の良さ・可能性を信じて欲しい。
○ 我が子の問題行動の原因をどこかに求め、正当化したい。

私もBも悪くない。責められたくない。 我が子を信じて。

気持ち・考え

ウ 連携のポイントと父親の気持ちの変化
学校への不信感をもつ父親の状況を理解し、次のように父親との面談を行い、Bへの指導・援助を進めた。

① 保護者は協働のパートナーであるという認識をもち、誠意ある対応に努めた。

「玄関での迎え、来校へのお礼、座席位置の配慮などで、学校の誠意を伝え、気持ちよく話し合いができる環境をつくることが大切である。」

T： お忙しい中、お時間をとってくださり、有りがとうございます。

保護者として大切にされている。（信頼感）

② 学校の考えを伝えるより先に父親の話を聞いた。

「いろいろ非難されるだろう」と構えて来校した父親の気持ちをほぐすこと。また、話を途中で遮らないことが大切である。

T：（ねぎらいの言葉の後、事実のみを伝え、簡単に面談の趣旨を説明した。）

P：（開口一番、C教諭の授業への不満や学校の指導に対する批判が続いた。）

T：（うなずきや相づちを入れながら、父親の方をしっかりと向いて話を聞いた。）

※ 父親の話が一段落ついたら、

T： お父様のお話を聞いて…（父親の話の要約）。お父様は～とお考えなのですね。～な思いをさせてしまったことについては（過去の対応で不快な思いをさせた事実については謝罪した。）…。

自分（父親）の話をよく聞いてもらえた。

（不安・不満感の軽減）

③ Bをかばう親心を受け止めた。

父親はわが子を信じて、心配していること。また、悪い点ばかり取り上げられると、子どもの言い分を代弁したくなる親の気持ちがあることを踏まえて話を進めることが大切である。

※ 父親の話が一段落ついたら、

T： お話を聞いて、Bさんへのお父様の愛情がすごく伝わってきました。電話連絡を受けて、ご心配なされたことと思います。お父様がおっしゃったとおり、Bさんにはすばらしいところがあると私たちも受け止めております。例えば、工作が好きで、整備委員会でも箱作りで一生懸命取り組んでいました。興味・関心のあることに集中できることはよいことですよ…（など長所を取り上げて具体的に話した。）…。

Bや自分（父親）のことが理解されている。

（信頼感）

④ 話し合いは協議の場であることを認識し、行為の是非は非として確認した上で今後の対応を話し合った。

議論の優劣を付けるのではなく、「誰がいつまでに何をしたらよいか」を具体的に検討する場にする。問題が起こっても「Bはかけがえのないクラスの一員」「それでもBが好き」という姿勢で対応することが大切である。

※ 父親の話が一通り終わったら、

T： 本当はBさんも今回のようなことをしたかったのではないと思います。Bさん自身も傷つくことになってはいけませんよね。お父様はBさんにどうなってほしいとお考えですか。

P： やはり、気にいらないことがあっても、落ち着いて行動して欲しいです。実は家でも言っているんですが…。そして、勉強もしっかりと。

T： なるほど、落ち着いて行動できるいいと考え、ご家庭でも指導していらっしゃるんですね。また勉強もやってほしいと。学校では、Bさんに今回の行動のこと、かねての勉強の悩みなど聴いてみます。また、学校全体でも授業の進め方について話し合う場をつくってもらえるよう相談してみます。今後のことでお父様がやれそうなことがありますか。

P： 私もBとじっくり話してみましよう。

今回は、Bへの一方的な指導だけでなく学校も具体案を出してくれた。（不安・不満の軽減）

⑤ 具体的な助言を行った。

「〇〇していただくと有り難いです。」という「私」を主語で話す受け止めやすい言葉を使うことが大切である。

T： 思春期にかかる年頃ですので、Bさんのプライドを傷つけないように、今後、どうしたらよいと考えているかを本人から聴き出していただくと有り難いです。

父親のやるべきことが見えてきた。（不安の軽減）

エ 支援の結果

父親を尊重した態度、父親の気持ちの受容により、父親の心がほぐれてきた。また、Bの良いところもきちんと踏まえた上で非は非としてきちんと伝え、Bへの具体的ななかかわりを助言したことは父親の安心感と学校への信頼感を得た。その後、父親も了承する中でBは担任とともにC教諭へ謝罪を行ったところである。

保護者との連携では、批判的であったり、非協力的であったりするように見える場合においても「困った保護者」ではなく、「困っている、悩んでいる保護者」という受け止め方が大切である。

そして、児童生徒のために「どうなればいいか、そのためにはどうしたらいいか」ということを保護者と学校が共に考え、支援していくことが必要である。

－参考文献－

- 國分康孝・國分久子監修『保護者との対応』2003, 図書文化
- 嶋崎政男著『困った親へへの対応』2005, ほんの森出版
- 高橋伸二, 八巻寛治編著『保護者会で使えるエンカウンター・エクササイズ』2006, ほんの森出版
- 文部科学省『生徒指導提要』2010, 3月

（教育相談課）